

令和6年度秋期 プロジェクトマネージャ試験合格発表 分析コメント

(株) アイテック IT人材教育研究部 2024,12,26

10月13日(日)に行われた令和6年度秋期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。IPAから発表された得点分布など統計データの分析結果をもとにして、応用情報技術者試験の分析コメントをお知らせします。

■プロジェクトマネージャ試験 (PM)

[令和6年度秋期 プロジェクトマネージャ試験 統計情報]

応募者	13,481人
受験者	8,627人
合格者	1,195人
合格率	13.9%

令和6年度秋期のプロジェクトマネージャ試験の合格率は13.9%で、前回の13.5%から少し増えましたが、平成21年以降の今の試験制度になってからとしては平均的な合格率です。

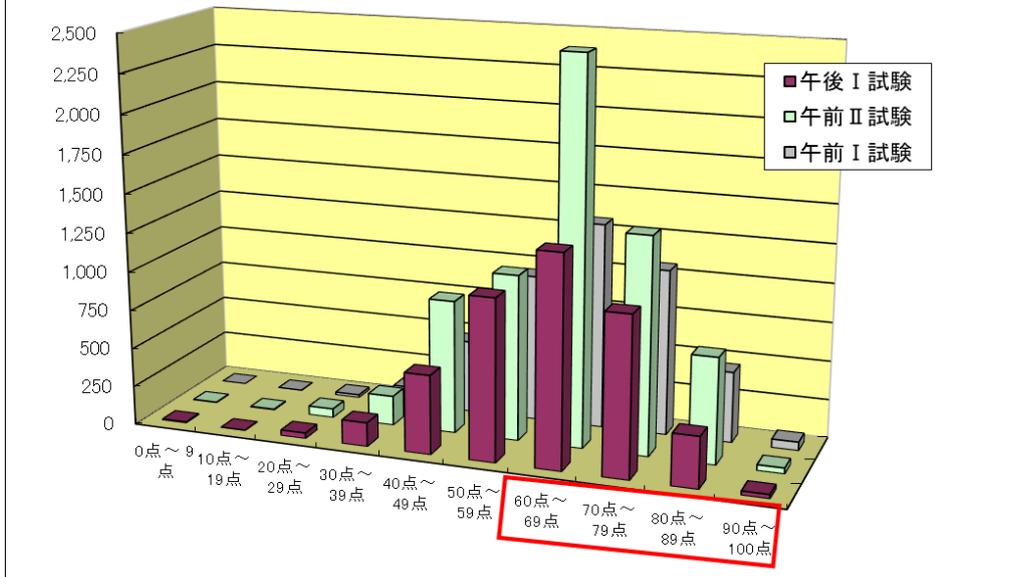
次に発表された得点分布の分析とグラフを示します。

[令和6年度秋期 プロジェクトマネージャ試験 スコア分布]

得点	午前Ⅰ試験	午前Ⅱ試験	午後Ⅰ試験	午後Ⅱ試験	合格者
0点～9点	0	4	7	D 356	
10点～19点	2	5	3		
20点～29点	18	57	36	C 497	
30点～39点	114	191	154		
40点～49点	468	858	508	B 661	
50点～59点	945	1,064	1,036		
60点～69点	1,320	2,453	1,351	A 1,195	
70点～79点	1,065	1,388	1,022		
80点～89点	456	680	328		
90点～100点	55	37	26		
計	4,443	6,737	4,471	2,709	1,195
対前試験比率		151.6%	66.4%	60.6%	44.1%
午前Ⅰ免除者概算	4,184	48.5%			

合格者数	1,195	採点者数の割合	合格者数との差
午前Ⅰ 60点以上合計	2,896	65.2%	1,701
午前Ⅱ 60点以上合計	4,558	67.7%	3,363
午後Ⅰ 60点以上合計	2,727	61.0%	1,532
午後Ⅱ-A 評価	1,195	44.1%	0

令和6年度 プロジェクトマネージャ試験 得点分布



午前 I 試験免除の人は増える傾向にありますが、得点分布を分析してみると、今回午前 I 試験の免除者は概算で4,184人（48.5%）おり、受験者の5割近くが午前 II からの受験となっています。この午前 I 試験で基準点60点以上取ることができた人は2,896人（受験者の65.2%）でした。

午前 II 試験で基準点以上の人は4,558人（受験者の67.7%）で前回の69.0%とほぼ同じですが、前々回は90.3%もありました。これは、事例を使った少し難しい考察問題や新傾向問題が多かったことによるものと思われます。

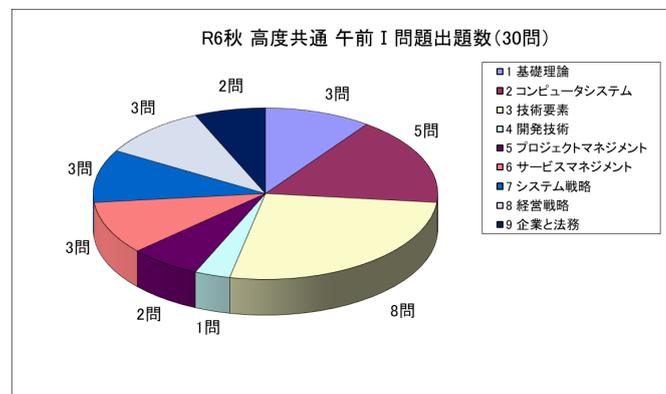
また、午後 I で基準点（60点）以上取れた人は56.5%で、前回の61.6%から少し減りました。最後の午後 II で合格点のA評価だった人は39.6%で、前回試験の47.2%から減っています。

■ 令和6年度秋期 プロジェクトマネージャ試験の出題内容について

〔午前 I 試験（高度試験の共通知識問題）〕 30 問出題／30 問解答，50 分

高度試験で共通して出される午前 I 試験の 30 問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験（AP）の午前試験 80 問の中から選ばれていて、テクノロジ系 17 問（57%）、マネジメント系 5 問（17%）、ストラテジ系 8 問（26%）という出題比率です。

午前 I 試験には免除制度がありますが、高度試験の約 4～5 割の人が午前 I 試験から受験しています。今回の午前 I 試験で 60 点以上取れた人は 65.2%いましたが、これまで 60 点以上の得点で午前 II 試験の採点に進む人は 5～6 割で、出題範囲が広いため試験問題を難しく感じる人がかなり多いといえます。難しい問題が多いときには 4 割程度の人しか通過できないときもあったので、最初の午前 I 試験でつまづかないように、早めに試験対策の学習を始め、確実に知識をつけていく必要があります。

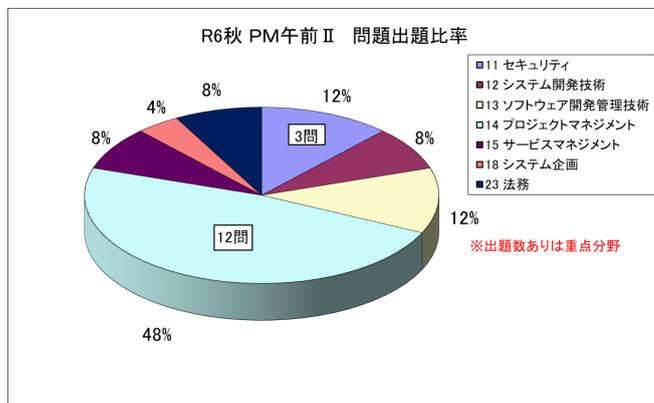


・今回の午前 I 試験は、6 割以上が過去問題でしたが、オーソドックスな問題が多く、前回より解きやすかったといえます。

- ・重点的に出題されるセキュリティ分野の出題数は前回と同じ4問で、最も多い出題数です。
- ・新傾向問題は3問で前回の4問と大きく変わっていません。

〔午前Ⅱ試験（専門知識問題）〕 25問出題／25問解答，40分

午前Ⅱ試験では，専門分野のプロジェクトマネジメント（PM）分野から12問出題されました（前回13問）。以前はPMBOKに関して第6版対応で数問出題されていましたが，PMBOKが第7版に変わり，試験で出題されるか注目していましたが今回ありませんでした。なお，JIS Q 21500:2018「プロジェクトマネジメントの手引」からは2問の出題がありました（前回4問）。過去問題の出題は約7割ありましたが，プロジェクトマネージャ試験の過去問題は改題されて少し変わったものも含めて13問ありました。前回の5問から大きく増えています。



午前Ⅱ試験の内容で注意すべきこととして，前々回の試験から実務内容に近い事例を提示して考える問題が増える傾向があることです。今回は1問だけでしたが，前は4問もあり，問題は解答に時間がかかることから難易度が高いといえます。次回以降，このような問題がまた増える可能性もあるので，R4年とR5年度の午前Ⅱ問題は確実に正解できるように十分学習しておいてください。

〔午後Ⅰ試験〕 3問出題／2問解答，90分

午後Ⅰ問題の出題内容は，問1がプロジェクトの品質，問2がプロジェクトの時間，問3が計画の修整（テラリング）でした。このうち，問1では新しい内容として情報処理技術者試験の出題範囲に加わったUX（顧客体験価値）の提供に関する新しい傾向の問題，問3が計画の修整（テラリング）で少し難しい設問も含んでいますが，全体としてオーソドックスな内容で例年どおりの難易度だったといえます。

〔午後Ⅱ試験〕 2問出題／1問解答，120分

午後Ⅱの論文問題の出題内容は，問1がコストのマネジメントについて，問2がリーダーシップの選択についてというものでした。問1の方が記述しやすい事例といえます。問2は個々のメンバーの状況把握をしたうえでのリーダーシップの選択と発揮について，状況説明などの記述が難しいと思われるので，問題の難易度が高いといえます。

